

(学校番号062)

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【片柳小学校】

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】 国語においては言葉の特徴や使い方に関する事項について課題が認められた。算数においては数と計算について課題が認められた。 【指導上の課題】 児童が反復・習熟に取り組み時間の設定が不十分である。	⇒ ミライシードのドリルパークやスタディサプリなどの活用による、反復練習に取り組む。特に、高学年への算数における基礎学力向上の方策を考えて実行していく。【自習時間や長期休みの課題として実施】
思考・判断・表現	【学習上の課題】 国語においては、話すこと聞くことと読むことに課題が認められた。算数においてはデータの活用に課題が見られる。 【指導上の課題】 児童に主体的に考えさせる場が不十分である。	⇒ 元年度調査より、数値の向上も見られるので、引き続きICT機器の活用もしながら改善を続けていく。【毎回実施】活動の中に共同編集を位置づけ、協働的な学びを通して考えたり表現したりすることができるようにする【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】。

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	算数の、速さの意味について理解しているかどうかを捉える問題に課題がみられた。単位換算を行わず、数字をそのまま使用して立式する児童が多く、速さや時間に対する理解が不十分であると考えられる。また、国語と算数両方を通して共通する課題は、文章問題を構成する語句が増えると正答率が低くなる傾向が見られる。
思考・判断・表現	国語の、物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く問題に課題が見られた。問題形式は記述式である程度の量の理由を書く必要のある問題であるが、無回答率が多く見られた。また、算数でも折れ線グラフから必要な数値を読み取り条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する問題も無回答率が多く見られた。これらのことから、記述式の問題はよく考える前にあきらめてしまう児童が多い傾向があると考えられる。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	高学年では、テスト前の授業や宿題でドリルパークを取り入れ、理解の定着やつまずきを取り除く手立てとして活用することができている。また、夏休みの宿題でスタディサプリを活用し、一学期の復習を行うことができた。やっていない児童には夏休み中に連絡をいれるなどスタディサプリの機能を効果的に活用できた。活用は行えてるがもっと積極的に行えるよう進めていく。	変更なし
思考・判断・表現	B	エバンジェリストやICT支援員による研修を定期的に行うことにより、教職員のICT技能の向上や教育用アプリの活用方法の共通理解を図ることができている。その結果授業において共同編集を行う様子も多く見られる。反面、積極的に行う教員とそうでない教員の差も大きく見られる。	学校研修の中で、全教員がICTを活用した研究授業や研修授業を2・3学期中に行う計画を立てたので、随時行っていく。

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	